

2024年10月2日

報道機関 各位

地域文化研究会 特別講演会

「琴海の嵐」を語る：幕末大村藩の激動と剣豪渡辺昇の活躍
の開催（お知らせ）

長崎大学附属図書館地域文化研究会は長崎大学の研究者による学部横断的な研究グループです。研究会メンバーだけではなく、本学の学生、教職員、一般の方々に向けた講演を行っています。今回は2023年に『琴海の嵐：幕末大村藩刺客、渡辺昇伝』を上梓されました、本学経済学部のご卒業生である山浦久司先生をお招きし、幕末の大村藩、さらには刺客、後には明治政府の高官としても活躍した渡辺昇の活躍についてご講演いただきます。

事前の申込不要です。どなたでもお気軽にご参加ください。

■日 時：2024年10月25日（金）16:30～18:10 終了予定

■場 所：長崎大学経済学部 22 番教室
（長崎市片淵4丁目2番1号）

■講 師：山浦 久司（やまうら ひさし）氏
長崎大学経済学部卒業（19回卒）
明治大学名誉教授、元会計検査院長

ことうみ

わたなべのぼり

■演 題 「琴海 の嵐」を語る：幕末大村藩の激動と剣豪 渡辺 昇 の活躍

<概要>

大村湾の古称「琴海」に抱かれた大村藩は、徳川の治世下にありながら、戦国時代からの血脈を保ち続けた数少ない大名家の一つである。大村藩は表石高が2万7千石余に過ぎない小藩だが、幕末期、藩内の旧勢力を排除し、倒幕の急先鋒である薩摩、長州、土佐と肩を並べて近代日本の成立に大きく貢献した。

明治維新当時、「薩長土肥」の「肥」は「肥前」大村藩であると言わしめることになるのだが、ともすれば雄藩の中に埋没したかもしれない大村藩を表舞台に押し上げ、倒幕の最前線で活躍する場を作ったのが、藩士で、幕末の剣豪の一人として名を連ねる渡辺昇であった。

大佛次郎の「鞍馬天狗」のモデルとも言われ、この主人公に劣らぬ活躍をしながら歴史の中に埋もれていった渡辺昇を、今、蘇らせ、同時に、大村藩の躍動の姿を追った小説「琴海の嵐」を、著者が自ら解説する。

主催：長崎大学附属図書館地域文化研究会

後援：長崎大学経済学部、公益社団法人瓊林会

【本リリースに関するお問い合わせ先】

長崎大学附属図書館 総務担当

libsoumu@ml.nagasaki-u.ac.jp

TEL:095-819-2193